

# 挙手：

教授法と適合性に関する考え

どれだけの挙手が無視されたままなのだろうか。  
どれだけの疑問が無視され、嘲笑されていることか。

なぜ、好奇心はこんなにも蔑ろにされるのだろうか。  
なぜ、物事の本質を見極める教育者が  
これほど少ないのだろうか。

みな疲れ切っている上に凡人だからでしょうか。  
あるいは、私達の知識が不完全なことへの  
深い恐れでしょうか。

今後また、  
このように答えられないまま、  
さらに疑問を投げかけられたら、  
あなたは何を思い、どう答えますか。

TN

ミン： 最初は何か嫌味を言いたくなりましたが、この詩が有効なポイントになるので黙っていた方が賢明だと思います。

悟： 微笑) それは不快な真実を呼び起こします。

玲亜： とにかく、しばしば私たちの質問は的外れに見える。人生は、私達の探求とは無関係に、事前にプログラムされたように運んでゆく。

ティム： 私たちはいつ質問すべきか？いつ私たちは沈黙すべきか？それは私たちすべてを熟考する必要がある問題です。

- T Newfields (和訳: 吉田典子とテレサ)

開始: 2002年名古屋 ♪ 完成: 2018年横浜

